

3月22日～ アンナプルナ B.C

藤村 敏幸

山名	アンナプルナ B.C	山行名	アンナプルナ B.C 山行
ルート	ポカラ→サムルン→アンナプルナ B.C→サムルン→ポカラ		
山行日	令和5年3月22日～27日	天候	晴れ後曇り又は雨
参加者	CL: 藤村 SL: 平尾 西川 木田 伊藤多恵子 和田 大西		

	地名	時:分	25 マチャプチャレ発	5:30
	3/22 ジヌダダ発	11:35	デオラリー着	15:20
	チャムロン着	15:35	26 デオラリー発	7:30
	23 チャムロン発	7:00	チャムロン着	17:20
	ヒマラヤホテル着	17:00	27 チャムロン発	7:00
	24 ヒマラヤホテル発	7:00	ジヌダダ着	14:30
	マチャプチャレ着	13:00		

ようやく山行報告書を書くときがきました。昨年の9月から何回も打ち合わせをして、コースを変え、その都度現地の trekking 手配業者から見積もりをとり、検討して問い合わせを繰り返して実施できました。ネパール入国までには新型コロナウイルス感染症予防接種証明書の取得、ビザの取得、そして1月にカトマンズからポカラ間の飛行機の墜落事故発生により急遽国内移動をチャーター車に変更、ポーターに預ける荷物のパッキング方法についての現地業者との調整、最後に日本帰国時の visit web Japan の登録と今までの海外登山ではなかった雑用に翻弄されました。

登山口のサムルンまでは、ポカラから3時間車で移動した。サムルンからは、ガイド2名とポーター2名を雇い急峻な道を登り、長大なつり橋を渡り、ラバの糞にまみれた石段を歩き、2日目は雨に打たれ、毎日寒い山小屋で過ごし、そして4日目のA.B.C直下では軽アイゼンをつけ高山病の不安を抱えて、3泊4日間を要してようやくアンナプルナB.Cに到着しました。そこには、想像を超えた巨大な8,000m級の山と氷河に囲まれた白銀の世界が寒々と広がっていました。すぐに写真を撮るが、空間の広がりや荘厳な山容を写し出すことはできませんでした。

日本語を話すガイドの適切な指導と、参加者の忍耐力により、予定通りのコースを、コース時間の1.3倍を要するが安全に5泊6日で全行程を踏破して登山口まで戻ることができました。

最後の日には、疲れを癒しに露天風呂に入浴をしました。残念なことに、日本人には殆ど合うことはなく、すれ違いう東洋人は韓国人が多く、山小屋には辛ラーメンが棚に並べられ、道中にはハングル文字の看板もあり、そしてマチャプチャレB.Cには韓国のRescue centerまでありました。アンナプルナB.Cのwelcome boardには、ネパール国旗と並び太極旗が2枚も張られていた。他にはどこの国の旗もなかった。ポカラで国際山岳博物館を訪ね、昔のことで忘れていたマナスル登山隊や田部井さんの登山用具や写真を見る。

日本帰国時にデジタル庁が昨年導入したvisit web Japanシステムを利用するの必要がありました。このシステムに、password・名前・パスポート番号等を入力するには色々な文字書式の適切な選択が必要で、不慣れな私は登録するのに2時間以上要した。関空入国時には、沢山の事務員が待機し戸惑う客の対応をしていた。入国手続き簡素化ではなくより煩雑化していた。出発3日前の愛宕山ペース登山で、ご神体様に真摯に安全祈願をした。おかげで大きなトラブルもなく無事帰国することができました。参加された皆様、長い期間に渡り色々手数を掛け、そして長い山小屋泊山行ご苦労さまでした。

ヒヤリハットなし

山行1日目 3月22日(水) 晴れのち曇り 和田 千恵

前日、カトマンズから幹線国道とは思えない工事中の砂煙が立ち上る道を通り抜けてやっと着いたゴカラ、夕方から雨だったが、一夜明けて目が覚めるとホテルムラノの6階の窓からは遠くマチュピチュの雄大な姿に歓声が上がった！言葉では表せない！

8:00車で登山口へと出発、スイスイと凹凸もなく10:15下車、道路ががけ崩れで塞れているので少し歩き、再度車でサムルンに到着(11:35)。体験したこともないオフロード！ここから6日間の縦走の本格スタートだ。段差のきつい石畳の階段山岳道を進む。山間に落ち込んだ川底は見ないようにして、長い吊り橋を渡り、ジヌダダ(12:25)を経てチョムロンに到着(15:35)。1951mで懸念した高山病は問題なしだったが、夜の寒さは侮れない。山小屋初日の食事は種類も豊富で、もも(餃子)、チャーハン、焼そば、ピザ、スパゲティと美味しかったが、これが毎日続くこととなる。

2日目 3月23日(木) 晴れ後曇り雨 大西 良子

トレッキング2日目、チョムロン(1951m)を出発しヒマラヤH(2873m)まで6時間の予定歩行。周りの集落で生活する人々が利用している道、馬やろばも行きかう自然そのものの街道、竹林の森の中に入ると色鮮やかなシャクナゲの大樹とても素敵な風景のトレッキングと想像されるかも。がその道の高低差は半端ないものです。やはりヒマラヤトレッキングそんなにも甘いものではない…。最後までついて行けるか一抹の不安を感じる日となりました。

チョムロン(7:00) →バンブー(12:00) →ドファン(14:15) →ヒマラヤH(17:00)



3日目 3月24日(金) 晴れ後曇り、雨 西川 洋

山行時間に思ったより時間がかかり、そのため通常よりも朝早く出発する。それも、午後3時から4時までの間には雨が降り始めるからである。雨が降る前に次の宿に到着するために、出発を1時間早める。マチュピチュの尖った山形を目標にするが、今日は朝から温度が低すぎる。出発から1時間半を過ぎると、太陽の光がサンサンと照り始め、とても暑く感じるが、しばらくすると雨が降り始めとても冷たくなる。

美しい山の風景に囲まれて、13時マチュピチュBC到着。山小屋に入りしばらくすると雲が広がり雪がちらほら降り始める。3時には大雪となり氷河への見学は中止となる。時間が余った為、会長による坊がつる讃歌の講習会及び山友会の準役員会となる。この日は非常に寒いが体力的に余裕ある日であった。

4日目 3月25日(土) 晴れ後曇り 伊藤 多恵子

いよいよ今日は、今回の旅の目的地であるABC(アンナプルナ・ベース・キャンプ)を訪れる日だ。昨夕、マチャプチャレBCの小屋に到着後から降り続く雪を眺めながら翌日の行程に少し不安を覚えていた。何しろ富士山を越える標高は生まれて初めての経験だ。窓の外の風景はみるみるうちに白くなっていく。が、深夜には星空が広がっていた。

4時起床、ホットドリンクを一杯飲んで5:30出発。全員アイゼンとヘッドランプを身に付けて。泊まった小屋(3900m)からABC(4130m)まではわずか230m。(甘南備山を一登りする程度?)高所とは言えサブガイドのパスンさんの後をゆっくりと進むので、無理なく歩ける。一行のうち、(私も含めて)4名が風邪気味。3名に軽い高山病の症状が出てダイアモックスを服用。それでも、誰一人欠けることなくここまで辿り着いた。雄大な景色に感嘆の声を上げながらABCの小屋に向かう。周囲は圧倒的な高さにそびえ立つアンナプルナ・ヒマラヤの峰々。奥深く、果てを知らない広さ、雪をも寄せ付けない急峻な壁。初めて目にする世界だ。休憩後、近くの氷河を見学。氷河がどんどん後退しているのを目の当たりにする。ゆっくり朝食を頂いてから再び元のルートに下山を開始。昨夜の小屋で昼食。さらに下って3200mにあるニューパノラマゲストハウスに3:20到着。長い一日の行動を終えた。

ところで、アンナプルナの意味をガイドのラクパさんに教えてもらった。アンナは穀物、プルナは「たくさん」という意味だそうだ。つまりアンナプルナは五穀豊穡の神様。どこの国でも人間の暮らしに大切なものを守ってくれるのが山の神様なのですね。

5:15 ホット・ドリンク 5:30 出発 8:05 ABC着 8:10~8:20 氷河見学 12:00頃 マチャプチャレBCで昼食 3:20 ニューパノラマゲストハウス着

山行5日目 3/26日(日) 晴れ後曇り 平尾 繁和

・デオラリ(3,200m) 7:30 発~ヒマラヤホテル(2,873m) 8:40 着~ドヴァン 10:25 着~バンブー(2,490m) 11:50 着:12:45 発~アッパーシヌワ 14:37 着~ローアシヌワ 15:30 着~チョムロン(1,951m) 17:20 着 泊

休憩時間を含め約10時間の長丁場だったが、天候もよく往きに雨の中をひたすら登った道では、寺院で断崖の滝、真紅のシャクナゲの花、ハクモクレンのなかまの花、亜熱帯の樹林の道など景色をじっくり楽しみながら下れた。道中足元にヒマラヤサクラソウの草丈数cmでピンクのかわいい花が昨夜の雨を受けてたくさん咲いていて目を楽しませてくれた。時折り谷筋から振り返れば、マチャプチャレの雪を頂いた名前(魚の尾)通りの山頂が何度も見え心に焼き付けた。下りが主体だが2回長い~登りもあった。ローアシヌワを下り、吊橋を渡るとチョムロンまで最後の登り。遠くで雷がなるなか無事雨にも合わずチョムロンの山小屋につきホットした。

山行6日目 3/27日(月) 晴れ後曇り 木田 修司

トレッキング最終日に「ジヌー温泉」入浴することができた。事前の協議では、現地の受入れ・体力・天候などと考えると可能性が低く直前まで実施可とはならなかった。国内では山、温泉、酒の三拍子を揃えた山行を旨としているが、ヒマラヤ山脈で適温の源泉かけ流し温泉に浸かることができ、湯船から山城を眺める至福の時を過ごせた。

4130mのアンナプルナB.Cへ平均年齢70歳8ヶ月の7名全員が到達できたのは、ビザ取得、コロナ接種証明のサポートや現地旅行社との頻繁な調整をしていただいた会長の尽力によるものであり、本当にありがとうございました。また自分にはとても出来そうにない会計処理を正確・迅速に処理していただいたOさんに感謝です。

